

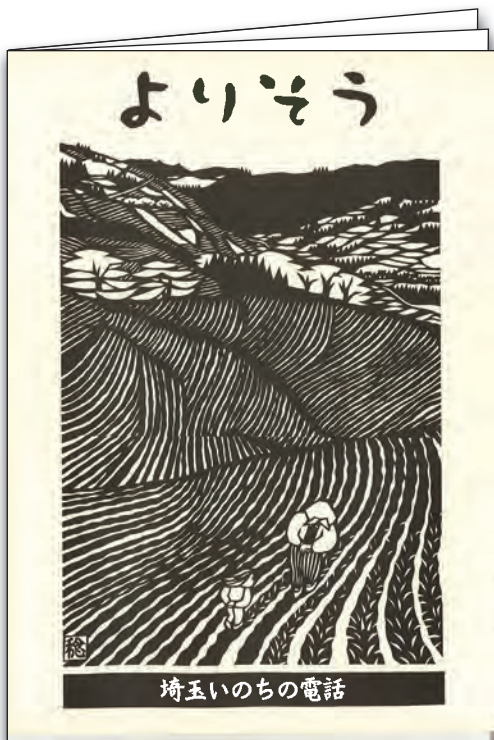
社会福祉法人



埼玉いのちの電話

ひとりぼっちで悩まずに……048-645-4343 **こどもライン048-640-6400**

発行人：小川 瑞穂 編集：広報委員会
発行所：社会福祉法人 埼玉いのちの電話
〒337-8692 大宮郵便局私書箱第29号
電話：048-645-4322
FAX：048-645-4355
<http://www.sainet.or.jp/~sai-id>



電話の向こうに
「いのちの電話」を必要としている人がいる
その人とかかわり
寄り添うことで
明日につながると信じているから

～埼玉いのちの電話20周年記念誌より～

あなたのご支援を必要としています。

いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。
現在 24 時間、365 日休まず相談を受けていますが、相談員の養成、研修、電話センターの維持管理、
広報活動費など、運営には多額の経費が必要です。
この活動をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

振込先：郵便振替 00140-9-137380
：埼玉りそな銀行大宮支店（普通）4315510
（福）埼玉いのちの電話
事務局：社会福祉法人 埼玉いのちの電話
〒337-8692 大宮郵便局私書箱第29号 TEL 048-645-4322

～「埼玉いのちの電話」開局20周年 「感謝の集い」～

埼玉いのちの電話開局20周年を記念して「感謝の集い」が、8月27日(土)さいたま市の「ラフレさいたま」で開かれました。日頃から支援して下さる埼玉県内の関係機関、後援会、近隣のいのちの電話センターなどからご臨席いただき、いのちの電話が、相談員はじめ多くの方々によって支えられていることを感謝する集いとなりました。

＜第1部 式典＞

200名を超える参加者を前に、4人の方々から式辞や祝辞が述べられました。



(小川理事長の挨拶、左より清水市長、斉藤理事、原会長)

埼玉いのちの電話 小川瑞穂理事長の挨拶

1991年9月1日に蕨市で開局した埼玉いのちの電話は、5年後に埼玉県から社会福祉法人の認可を受け、1997年から24時間受信態勢を実施してきました。

365日電話相談に誠心誠意対応している相談員には、頭の下がる思いで一杯です。その間に故人となった方々もおられ、とりわけ埼玉いのちの電話の設立を呼びかけた初代事務局長の故坂野保吉氏と、初代理事長故竹内正幸氏に、深く哀悼の意を表したいと思ひます。

開局より今日まで支援を続けてくださっている埼玉県民の皆様をはじめ多くの個人ならびに団体、そして相談員の皆様に、心からのお礼を申し上げます。

さいたま市 清水勇人市長の祝辞

埼玉いのちの電話は、20年という長きにわたって、市民の方々の悩みの解決や自殺予防を目的に電話相談を行なってきました。

相談員の皆様には、精神的危機に直面し救いを求める相談者一人ひとりの声に、親身になって耳を傾け、生きる望みを共に見つけることができるよう

日々ご尽力をされていることに深く敬意を表します。

さいたま市でも毎年200人以上の方が自ら命を絶っており、自殺は深刻な社会問題となっております。今後とも、苦しみや悩みを抱える多くの方々の支えになるよう、尚一層ご活躍いただけますよう、ご期待を申し上げたいと思ひます。

日本いのちの電話連盟 斉藤友紀雄理事の祝辞

埼玉の開局準備より関わり、初期の頃から自分のセンターであるかのような思いをもって一緒に仕事をしてきました。いのちの電話を立ち上げてきた中で忘れられない方々のことをお伝えします。

日本で最初にいのちの電話を提唱したドイツ人宣教師のルツ・ヘットkamp女史は、資金集めのためにクッキーづくりとその販売に奔走され、その徹底した奉仕の精神には頭が下がる思いでした。

目黒区の保健所長であった医師の増田陸郎氏は、行政の立場では自殺予防はできない、といのちの電話の相談員になり、ボランティアとして活動されました。医師でありながら、対等の目線でボランティアに徹して相談活動に取り組みされました。

精神科医師の稲村博氏は、いのちの電話の面接室で時間とお金を超越して自殺傾向のある人達の治療に当たられました。心の絆療法という精神療法をライフワークとして残され、患者と同じ目線であることでボランティアに模範を示されました。

ヘットkamp氏をはじめ、上に立つ人達、精神科医師達が、他のボランティアと対等に同じ目線で悩みある人達を受け止めてこられたことが、いのちの電話の基本姿勢として受け継がれてきました。

自殺予防は国の政策、診療・医学的対応やお金の問題ではありません。いのちの電話の精神をもった人達が居るということが、自殺抑止力になる、こんな風に私は考えています。この事を確認し、皆さんと共有していきたいと思ひています。

埼玉いのちの電話後援会 原宏会長の祝辞

今日までのいのちの電話の活動を担っている相談員や事務局スタッフの献身的な活動に、まず心より敬意を表したいと思います。又この活動を支えていただいている多くの支援者の方々に、深く感謝申し上げます。

平成6年4月に発足しました後援会は、埼玉新聞や広報誌への広告掲載、チャリティ映画会、バザー、チャリティコンサート、各種の公開講演会などを行ない、埼玉いのちの電話が安定した運営を続けられるよう財政基盤の確立と、地域の方々への広報活動を目的に支援を続けております。

地域に根ざした活動を目指した設立発起人の坂野さんの思いを活かして、1人でも多くの方が安心できるような、温もりのあるネットワークが広がることを祈念しております。

<第2部 地域からのメッセージ>

埼玉県自死防止対策事業に取り組んでいる立場から、いのちの電話の活動に対するメッセージをいただきました。

「電話相談の役割」

埼玉県立精神保健福祉センター 菊池礼子氏

埼玉県立精神保健福祉センターの「心の電話相談」を始めるとき、「来て話すほどでもない、ちょっとだけ相談したい方」を対象として位置づけましたが、これは大きな間違いであり、「相談に来るような力のない、電話がなければどうにもならない方」が対象であることが分かってきました。

やはりライフラインとして、いのちをつなぐぎりぎりの手段として活動してこられた「いのちの電話」の実績や経過等は、非常に重たいものだと思えます。例えば自死遺族の方の相談では、非常に深い悲しみを抱えていながら、手を差し伸べることも難しい状況です。いのちをめぐる事柄、非常事態の場では、目に見えないものを大切にするという基本に必ず立ち返りながら進まないと、電話相談の仕事はできないと思えました。

繰り返し自殺未遂をする人にどうしたらいいのか。救急現場に駆けつけてケアをする方々には、現場の方々の仕草や言葉というのがある。いのちの電

話で実際に電話を受けるその時、ぎりぎりの場でなければ出てこない言葉なり仕草なりやり方なりがあると思います。ぎりぎりの相談を受ける機会の少ない私たちのような人間や、自殺対策等の仕事をしている行政機関の人間にとっては、いのちの電話から伝えていただける交流の場があるというのは、非常にありがたいことだと思っております。

電話相談で「よく分かりました。ありがとうございました」と言って電話を切る方がいます。次の日、全く同じ電話がかかってくる。そのつど相談員が誠意をもって答えるということの積み重ねの意味を、電話相談では考えなければいけないと思います。

いのちの電話は、そうした深い理解が必要な現場、非常に深い仕事をされている方々だというふうな認識で捉えております。

それぞれご自身のお体・健康には十分気をつけていただきながら、今後とも活動を続けていただければありがたいと思います。

「地域での交流」

川越市保健所 保健予防課 富田雅子氏

川越市保健所では、住民の心の健康を守る拠点としてさまざまな精神保健に関する業務を担当しております。心の健康相談や家族教室、啓発広報事業や自立支援医療、精神障害者の支援などの中で、電話・面接・訪問などの個別相談もきております。

最近の傾向は、個々の相談内容が複雑化していかつ孤立している相談者が多いなどの原因で、一定の解決にまで至らない場合や、解決に至っても長期化するなど、困難事例が増えています。

家族間の絆が弱まり、地域での交流も薄れている現状では、相談相手を見つけることが難しく、特に精神的な問題では、親しい人にも話しづらい上、身近な人からの意見だけでは納得のいく答えを見つけにくいものです。

心のうちに悩みを抱えている方や話を聞いてもらいたい人には、「いつでも・だれでも・どこからでも」24時間・365日休みなく相談を受けてくださる「いのちの電話」は大変心強い存在で、連携できることを大変ありがたく思っております。

今後とも、お電話をする方たちのために絆をつくっていただき、支えていただきたいと存じます。

＜第3部 懇親会＞

感謝状の贈呈・乾杯

懇親会の初めに、埼玉いのちの電話の開局より現在までの20年間、相談員として活動してきた18名の方々と、また研修リーダーや様々な立場から継続して活動を支えてきてくださった9名の方々に、理事長より感謝状が贈られました。

続いて20周年を記念し、この活動を支えてきた中で亡くなられた方々や、またかつて相談員として一緒に活動した400人を超える方々に感謝の思いを込めて乾杯し、併せて参加者一同の益々の健闘を祈念しました。

埼玉いのちの電話はじめの物語

懇親会のメインは相談員有志による寸劇です。

22名によって結成された「ほやほや劇団」と称するメンバーにより、『埼玉いのちの電話はじめの物語』が演じられました。

今回の20周年記念の会場に、天国に行っている坂野保吉氏が登場し、立ち上げに関わったメンバーと会話を交わすという設定です。

東京の斉藤友紀雄氏から埼玉にいのちの電話設立を勧められ、そこからスタートした苦労話が繰り広げられていきます。会場も定まらず色々な場所を渡り歩き、今は当たり前に使われているパソコンもコピーもコンビニもなく、全て手探りであったことなど、それぞれの体験が語られました。

この寸劇を通して、立ち上げには並々ならぬ努力と熱い思いがあったことを、改めて感じるひと時でした。



(寸劇を熱演する「ほやほや劇団」)

ニッケルハルパーの演奏

スウェーデンの伝統楽器ニッケルハルパーを、日本に広める活動をしている鎌倉和子さんに演奏していただきました。

素朴な共鳴絃をもっているニッケルハルパーの通奏低音は、埼玉いのちの電話が大事にしていることにつながるのでは、と評する方がありました。

4年前の全国大会に次いで埼玉いのちの電話には2回目の出演となります。民族衣装をまとったご夫妻の演奏に、しばし心癒される和やかな時間を過ごしました。



(演奏される鎌倉さんご夫妻)

参加者からのスピーチ

立ち上げから関わったSさんは、「雪の日にも事務所探しに奔走する当時75歳の坂野さんの、寝ても覚めてもいのちの電話の事を考えている熱意に、一生懸命ついていかなければと覚悟を決めました」そして「立ち上げに関わったことをとても嬉しく、誇りに思っています」と当時を振り返りました。

深夜の電話担当を続けてきた1期生のNさんは「自分にとってのいのちの電話は、一つ一つが人生勉強の道場のようなものと捉えています。もう少し頑張っ続けて続けようと思っています」と語りました。

最後に「この活動を担っているのは相談員であるが、相談員を支える家族の理解があって初めて続けてこられたことに深く感謝したい。また自殺予防という同じ目標をもった地域の関係機関との連携を、今後ますます深めていきたい」との閉会の辞をもって、20周年感謝の集いを閉じました。

電話相談員の思い

埼玉いのちの電話では、この20年間1日も休むことなく電話を受け続けています。
それを支えている相談員の思いは、相談員の数だけあります。ここにその一部を紹介します。

よりそう *****

- ☆独りぼっちの心の叫びが聞こえます。今、共にいるよと寄り添えて、そして命を吹きかえして下さい。嬉しきとの思いで続けています。
- ☆「誰かに聴いてもらいたかったんです」と最後におっしゃる人がいた。たくさんの『誰か』が20年いのちの電話を支えてきた。これからずっと。
- ☆誰でもいい、この電話をとってほしい、話を聴いてほしいという方に、もし、私でよければどうぞお話しください。この思いだけです。

繋がっていたい *****

- ☆相談員としての歳を重ねる毎に、つながりの暖かさを感じ取れるようになりました。これからも、この場の暖かさをつくる人、もらう人としてこの場に居たいと思います。
- ☆せいっぱい生きている受話器の向こうにいる見知らぬあなた。共に同じ時を過ごしている。「ひとりじゃないよ」と伝えたい。私も、ひとりじゃないね。

聴くことは難しい *****

- ☆「話を聴けるようになる！」と思って始めて早8年。今は「ちゃんと聴けるかわからないけど、聴かせてください」かな。「聴く」って本当に難しい。
- ☆相談員に応募したきっかけは、単純に人のためになることをしたい、私も話を聞いてくれた人がいて救われたから。20年続けているのは、まだまだ傾聴の域にたどりつかないから。

感謝の気持ちで *****

- ☆今日もつつがなく、電話の前に座れることに感謝しています。
- ☆そんなに大層な思いはないんです。そこに行けば電話の向こうにもこちらにも必ず誰かがいてくれて、自分の心を豊かにしてくれていると思えるからかな…
- ☆相談員を続けて13年。毎回受話器を取るたびに緊張しています。最後に「ありがとうございました」と言われると、疲れがふっとんでいくようです。

仲間に支えられて *****

- ☆深夜、あなたの深いため息に心が沈む。一緒にいるつもりが、ふと気がつく私の方が支えられ、成長させてもらっている。仲間の暖かさにも唯々感謝です。
- ☆健康面や仕事との兼ね合いで、きつい時もありますが、365日24時間の中に私は入っているという認識で続けています。

(20周年記念誌「相談員の頁」より)

医療法人 社団 群羊会

http://www2n.biglobe.ne.jp/~fukuin

耳鼻咽喉科 **福音診療所**

〒364-0023 埼玉県北本市下石戸1549-51
TEL 048-592-2862
FAX 048-593-5067



内科・小児科 **南福音診療所**

〒364-0021 埼玉県北本市北本宿161-4
TEL 048-591-7191
FAX 048-591-9668

愛と献身 ふれあい 診療

天然ガスがひらく未来



エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS
http://www.tokyo-gas.co.jp/

次の世代の子どもたちのために、
いま、わたしたちが出来ること…
東京ガスは考えています。

東京ガスは、化石燃料の中でCO₂やSO_x・NO_xの発生量が最も少ないクリーンなエネルギーである天然ガスを使用した、効率的なエネルギーシステムの普及・拡大に努めています。また、環境にやさしい暮らしやエコライフの提唱など、環境コミュニケーション活動を推進しています。

相談員のための理論講座

発達障害について

「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。
(厚生労働省「発達障害者支援法」より)

発達障害を持つ子どもたちの理解と対応

児童精神科「豆の木クリニック」ケースワーカー
藤井和子

親の育て方によるものではありません

目に見えない障害を持っているために、理解をされにくい子どもたちがいます。知能の遅れはないように見えて、周囲からは普通に行動し学習することを期待されますが、様々な困難を抱えているためにできないことが多いのです。定型的な発達をしている子どもたちに比べて、おおざっぱに言うと凸凹だらけの発達をしています。原因は生物学的・神経学的な機能が不十分であるため、親の育て方によるものではありません。

もちろん親にとっても大変育てにくい子どもたちですから、不適切な養育になりがちで、二次的に情緒や行動上に問題を呈しやすく、時には虐待になったりします。その上、彼らは自然に振る舞っているのですが、結果的に集団を乱す行動となりがちなので、注意、叱責、仲間からの非難を受けることになります。彼らにとっては、集団は苦行の場でもあります。

個性的な子どもたち

発達障害を持つ子どもは、人と相互的に関わっていくことや、人の表情や気持ちを読むのが苦手です。正直であり過ぎて、場にふさわしくない言動をしてしまいます。例えば、知らない人に「おじさん、どうして禿げてるの?」と言ってしまふ。お母さんは冷や汗ものです。

また、人ではなく物に興味があつて、他の子どものおもちゃを力づくで取りあげたりするため、周りのお母さんや子どもから「乱暴な子」と避けられてしまいます。ところが、本人は自分の言動によって

相手が怒ったということが理解できないので、いい関係はなかなかつくれません。

数字が好きで計算が得意でも、文章の意味を読みとることが難しい。手先が不器用だったり運動が苦手で、どんなに努力してもうまくできない。皆と同じようにすることを求められる学校に、大変な思いをして行っているのです。

発達障害を持つ子どもが、自尊心・自己価値観を低下させて、不登校や引きこもりになってしまうのを防ぐためにも、小さいときからの周りの支援が必要です。集中力を持続させながら個別的看着していく特別な教育プログラムや、その子がどのような認知をしているのか、発達の状態をきちと見ていく必要があります。

対応はその子の特性を知ることから

家族に対してはペアレントトレーニング・カウンセリング・家族の負担を軽減する具体的な福祉サービスが必要です。発達障害を持つ子どもは、当り前の日常生活が一番苦手です。母親はどう対応しているのか分からず困っているのに、周りから「甘やし過ぎだ」「厳し過ぎる」「愛情不足じゃないのか」などと言われ、自信を失くし、親子で孤立してしまふ。親が子どもの特性を知って適切な対応の仕方を身につけることで、親子関係は変わってくるのです。

発達障害は発達と経験によって軽減してはいくけれども、基本的な傾向は大人になっても続いています。子ども時代の早いうちに分かつて、適切な支援をしてあげることが大事です。識別診断は、周囲や本人にどのような工夫と援助が必要かを考えるためであつて、苦手な部分を正常に近づけるために診断するわけではありません。

以上、藤井和子氏理論講座(2011/6/18)より抜粋

発達障害者への支援

埼玉県発達障害支援センター「まほろば」所長

藤平俊幸

「まほろば」では

自閉症などの発達障害のために社会生活の支援が必要な方とご家族を応援します。そして、ご本人の意思を大切に作る関係機関の支援者を応援します。(まほろばHPより)

脳の機能障害であるということ

発達障害は、自閉症、アスペルガー症候群、学習障害など、脳の機能障害であり、症状が小さい頃に発現します。しかし、実際には幼児期の特徴が機能障害なのか、その子なりの発達の仕方なのか区別がつきにくい部分があります。診断が必要な場合は、臨床経験のある医師が判断することになります。

また、最近では障害の特徴を「人との関係が悪い」などとする場合がありますが、とても危険な場合があります。確かに自閉症などの障害のある人は、人とのやりとりがうまくいきません。けれど、関係性の弱い人が、すべて「発達障害」ではないのです。

発達障害は、小さい頃に発現して症状は継続します。以前できていたことができなくなったり、良くなったり悪くなったりすることはないわけです。また、発達障害の診断がある方でも、生活上に調子の波をもつ方がいますが、他の障害や病気を併せ持つ可能性を考えなければならないこともあります。発達障害の場合は、適切な環境下で、徐々に社会適応が良くなっていくという考え方が一般的です。

こんなことで困っています

《複数の情報があると分からなくなる》

難しい言葉を知っている人でも、たくさんの言葉で説明すると、言葉をたくさん使っているというだ

けで分からなくなり、混乱が起きます。

《楽しみや興味などを相互に共有することを自発的に求めることが難しい》

自分から「ねえねえ、お母さん。これしよう」「これなあに」などと母親に対して、あるいは、そばにいる人に対して求めることが極端に苦手です。これは、思春期になって情緒的な課題で言わなくなるのとは違います。恥ずかしいとか、格好悪いとかの理由ではありません。幼少期に起きていることであって、情緒的な課題ではなく、機能の課題です。

断定することは、非常に難しい

しかし、こういう特徴があるからといって発達障害と断定はできません。そして「障害だからこうすればいい」という単純なものでもないのです。ちょっとした本を見ると、「何々障害にはこうするのがいい」などと書かれています。それは障害に対して書かれているのであって、例えば目の前にいる「自閉症の診断があるAさん」のことではありません。確かに診断は自閉症かもしれないが、AさんのことはAさんを捉えながら働きかけを行っていくことになります。それがとても大事なことです。

その人らしい活動を応援して

支援の基本は、障害を治そうとすることではありません。障害のある人が関心のあることや得意なことに働きかけ、苦手さを補っていき、安心できる活動や安定した場面にしていく、理解に応じて良好な経験を積んでいくことへの支援です。支援者は、その人がどこに困っているのか、何に困っているのか、これからどんなふうに進みたいのかという点を中心に、その人らしく活動できることを応援して欲しいと思います。

以上、藤平俊幸氏理論講座(2011/10/15)より抜粋



一生愛せる住まいをつくる。

ポラスの住まいづくりでは、耐震性や快適性などを配慮した様々な実験を日々行っています。耐震性を高めるために、骨組みや金具を自社開発するなど、ポラスは見えないところにも力を注ぎます。

住むほどに、良さがわかってくる。そんな、一生愛せる住まいを、ポラスはつくり続けます。

住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ

www.polus.co.jp

ポラス(株) 越谷市南越谷1-21-2 TEL.048-989-9119

ポラス

検索



第23期生

電話相談ボランティア募集

募集人員 約50人
 対象 25歳～65歳(2012.4.1現在)
 募集期間 2011年12月1日～2012年2月15日
 募集要項 11月下旬から配布

■募集説明会

12月4日(日)10:30 クラッセ川越 多目的ホール
 12月7日(水)10:30 浦和コミュニティセンター第6会議室
 1月7日(土)14:00 大宮ソニック 906会議室

■募集要項請求・問い合わせ

埼玉いのちの電話事務局 048-645-4322

あゆみ

2011年

- 9月 3日 22期生講義「家族関係」
こどもライン研修
- 9日 自殺予防キャンペーン(浦和駅東口街頭)
自殺予防キャンペーン(大宮駅)
- 10日 フリーダイヤル
- 17日～19日 22期生生宿研修
- 17日～18日 相談員のためのエンカウンター研修
- 17日 震災ダイヤル受信開始(13:00～20:00)
- 25日 21期生認定式・相談員10年感謝状授与式
- 10月1日～3日 いのちの電話相談員全国研修北九州大会
- 3日 定例後援会理事会
- 8日 22期生講義「精神障害」
- 10日 フリーダイヤル
- 15日 理論講座「発達障害への支援」
- 31日 県央自殺対策連絡協議会
- 11月 3日 地域福祉まつりinさいたま参加
- 10日 フリーダイヤル
- 12日 22期生講義「性I」
ASA埼玉いのちの電話
支援チャリティコンサート(入間市民会館)
- 15日 こどもライン講座「子どもの声を聴く」
- 19日 東日本広報担当者会議
こどもライン研修
- 27日 「クミコ」チャリティコンサート
(大宮ソニックシティ大ホール)

●編集後記●

開局20周年に際して、日々研鑽に努め電話に向かう相談員に、なぜ電話を取り続けるのかと尋ねました。思いは相談員の数だけあります。その思いを一つにして、これからも活動を続けていきます。(W)

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

自殺予防 いのちの電話

0120-738-556

毎月10日(フリーダイヤル)

8:00～翌日8:00(24時間・無料です)

公開
講演会

森のイスキア

佐藤初女さんを招いて

「こころを結ぶ」食はいのち

日時：2012年1月21日(土)午後2時開演

場所：大宮ソニックシティ 小ホール

申し込み・問い合わせ：

参加費無料

埼玉いのちの電話事務局 048-645-4322

チャリティ映画会&バザー

アンダンテ ～稲の旋律～

日時：2012年3月20日(火・祝日)

第1回10:30～ 第2回14:00～

会場：大宮ソニックシティ・小ホール

チケット料金：1,000円

原作者 旭爪あかねさん舞台挨拶

第1回上映後 第2回上映前

震災により中止した昨年度の映画会「アンダンテ」のチケットをお持ちの方は、そのままご利用いただけます。不明な点は事務局までお問い合わせください。

地球上で、もっともエコロジーなクルマであること。
 もっとも先進的なクルマであること。

もっとクルマの楽しさを。
 Answer for you
 TOYOPET



埼玉トヨペット お客様相談室(定休日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日))
 本社/さいたま市中央区上落合2-2-1
<http://www.saitama-toyopet.co.jp> お車のことならなんでもお気軽に ☎ 0120-319231



大切ないのちを守りたい

責任の
武州ガス
 ウィズガス

川越市田町32-12

TEL(049)241-9000

<http://www.bushugas.co.jp>